

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.2/14(月) ~ R4.2/20(日)

令和4年第7週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
陽性者数	① 合計 <sup>※2</sup>	12983人	13960人	-	-
	② 対人口10万人	843.1人	906.5人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.93	1.03	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		91%	92%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 <sup>※3</sup> （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		50.0%	52.4%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>		2/20現在	2/13現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	335人	298人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	70.2%	62.5%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	25人	21人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	36.2%	30.4%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	10903人	11274人	-	-
	⑨ 対人口10万人	708.0人	732.1人	20人以上	30人以上

## <参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>	2/20現在	2/13現在	-	-
⑩ 入院率 <sup>※4</sup> (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	3.1%	2.6%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

## <変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果 (川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載)

	直近1週間 R4.2/14 ~ R4.2/20	前週 R4.2/7 ~ R4.2/13	累計 R3.3/11 ~ R4.2/20
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	12件	1件	625件
ο株 (オミクロン)	182件	85件	378件

オミクロン株が検出された場合は、都道府県単位として神奈川県が県内状況を一括して発表を行っているため、ここではこれまではバー(—)表示としてきたところですが、川崎市内でもオミクロン株の増加がみられているため、第2週より川崎市内のオミクロン株の検出状況についても示すこととしました。

なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

## <評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、年が明けた令和4年第1週（1月3日～9日）から第5週（1月31日～2月6日）にかけて、新規陽性者数の急速な増加がみられました。第5週・第6週（前週）は増加が続いているものの増加幅は小さくなり、第7週（今週：2月14日～20日）は12,983人と第6週（前週）の13,960人を下回り、7週間ぶりに減少に転じました。一方、入院患者は第2週75人から第5週280人までは急増しました。増加幅は小さくなってきましたが第6週（前週）298人、第7週（今週）335人と増加傾向が続いています。重症患者数も第5週11人から第6週（前週）21人、第7週（今週）25人と増加しています。療養者数（入院・自宅および宿泊者数）は、第5週17,136人から第6週（前週）11,274人と昨年50週より8週間ぶりに減少に転じ、第7週（今週）も10,903人と減少が続いています。

ステージ分類は、第5週から3週間続いて5/6項目がステージⅣ、第6週・第7週と2週間続いて1/6項目がステージⅢとなっています。

### <感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、昨年第49週（令和3年12月6日～12日）に7人と昨年で最も低い数値となりました。第50週～第52週は微増、年が明けて第1週522人から、第2週569人→6882人→12,534人→13,617人と毎週急増しましたが、第6週（前週）は13,960人と増加幅が小さくなり、第7週（今週）は12,983人と減少に転じています。
- ② 対人口10万人あたりの新規陽性者数も昨年第48週・第49週は0.5人と昨年で最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週と微増し、年が明けて第1週33.9人から、第2週166.8人→446.9人→813.9人と急増しました。第5週は884.2人、第6週（前週）は906.5人と増加幅が小さくなり、第7週（今週）は843.1人と減少に転じています。

ステージ分類は、第1週から第7週（今週）まで6週間連続してステージⅣとなっています。

- ③ 前週との増加比は、昨年第48週0.40、第49週は0.88と低い数値でしたが、第50週～第52週と微増、年が明けて第1週18.0、第2週4.92と急増しましたが、第3週2.68→1.82→1.09→1.03と減少が続き、そして今週は0.93と1.0を下回りました。これは、これまで新規陽性者数の合計数は急増しているもののその増加の程度は鈍ってきていることが示されており、第7週（今週）に1.0を下回ったことは、新規患者数は減少に転じたことが示されています。ただし、新規陽性者数の急増に伴いその登録が遅れが出てきているという点もあり、このまま減少するのか、再び増加傾向あるいは平坦な形で続くのかについては、慎重に経過を見ていく必要があります。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第52週の72%から、第1週68%→79%→79%→85%→88%→91%→92%、そして第7週（今週）は91%と高値が続き、8週間連続してステージⅣとなっています。
- ⑤ 検査陽性率は、算定方法を34週から変更しております（表の説明※3）が、第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第48週、第49週は0.2%でした。第50週～第52週は微増し、年が明けて第1週9.4%から、第2週26.4%→39.4%→43.6%→51.1%→52.4%と増加が続きましたが、第7週（今週）は50.0%とやや低下しました。

ステージ分類では、第2週～第7週（今週）と6週間連続してステージⅣとなっています。

### <医療提供体制等の負荷：報告日2月20日現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、昨年第49週は2人まで少なくなりましたが、第50週5人→14人→16人と微増し、年が明け第1週23人から、第2週75人→134人→216人→280→298人と増加が続き、第7週（今週）は335人とさらに増加しています。

確保病床数は現在477床となっており、入院病床使用率は、第52週3.4%から、第1週4.8%→15.7%→28.1%→45.3%→58.7%→62.5%と急増し、第7週（今週）は70.2%と増加が続いています。

ステージ分類では第5週～第7週（今週）と3週連続してステージⅣとなっています。

- ⑦ 重症入院患者数は第47週～第52週は0～1人を前後し、今年に入っても第1週0人から、第2週1人→3人→4人と推移していましたが、第5週11人、第6週（前週）21人、第7週（今週）25人と3週連続で増加しています。

重症者の確保病床は現在69床となっており、重症病床使用率は、第47週～第2週の間は0%～1.4%を繰り返していましたが、第3週4.3%から、第4週5.8%→15.9%→30.4%、そして第7週（今週）は36.2%と増加が続いています。

ステージ分類では第39週～第5週と19週連続してステージⅢ解消となっていたましたが、第6週・第7週（今週）と2週連続してステージⅢとなっています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第49週は8人まで減少しましたが、第50週～第52週と微増が続き、年が明け第1週367人から、第2週1,785人→4,743人→8,677人→17,136人と急増しました。第6週（前週）は11,274人と減少し、第7週（今週）は10,903人と2週連続して減少しました。ただし、③前週との増加比と同様に、新規陽性者数の急増に伴いその登録に遅れが出てきているという点もあり、このまま減少するのか留まるのか、再び増加傾向あるいは平坦な形で続くのかについては、慎重に経過を見ていく必要があります。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第48週0.8人、第49週0.5人まで少なくなりましたが、第50週～第52週に微増、年が明け第1週23.8人から、第2週115.9人→308.0人→563.4人→1,112.7人と急増しました。第6週（前週）は732.1人、第7週（今週）は708.0人と減少が続きました。ただし上記⑧と同様、新規陽性者数の急増に伴いその登録に遅れが出てきているという点もあり、このまま減少するのか留まるのか、あるいは再び増加傾向あるいは平坦な形で続くのかについては、慎重に経過を見ていく必要があります。

ステージ分類は、第2週～第7週の6週連続してステージⅣとなっています。

#### <変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が12件追加され、令和3年3月11日～令和4年2月13日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は625件となっています。オミクロン株は182件が追加され、累計は378件となっています。なお、ここで記載しているデルタ株、オミクロン株の検出件数は、スクリーニング数ではなく詳細なゲノム解析によって確定された数となっています。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、新規陽性者数は減少に転じました。大変有難いことですが、入院患者数・重症入院患者数はまだ増加が続いています。入院患者数ことに重症入院患者数の減少は、新規感染者数に1～2週間遅れて現れるので、まだしばらくは動きに注意が必要です。

川崎市を含む神奈川県及び首都圏1都3県は1月21日より、全国では2月21日現在合計29都道府県がまん延防止重点措置の適用地域となっています。普段の生活に大変なご不便、ご迷惑をおかけしていますが、新型コロナウイルスに感染しないよう、広がりを抑えるようにするのは、市民お一人お一人の注意によるところが大切です。感染の広がりを抑え、またご自分に及ぶリスクは少ないとしても身の回りの方が感染を受けて重症者にならぬよう、感染リスクが高まる行動はもうしばらくの間避けてくださるようお願いいたします。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、いろいろな場において感染を受けない、感染をさせないための基本的なかつ重要な注意点であり、デルタ型ウイルスであってもオミクロン型ウイルスであっても変わらない有効な予防対策法です。また、外での飲食やどちらかへお出かけになる時には、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされるようお願いいたします。

たします。日常生活をできるだけ取り戻し、それが維持できるようになるため、ご理解ご協力ください  
ますようお願いいたします。

なお、オミクロン株の場合、潜伏期間はこれまでのおおよそ5日間から3日間と短くなり、感染の広がりは3~4倍に早くなっているため、感染が急速に拡大したことになります。人に感染をさせるようなウイルスは発症から9日間以内に、あるいは症状から改善してから2日間以内に消失する（人にうつさなくなる）とされています。ワクチンを2回接種した人は、接種していない人に比べて入院率・重症化率は明らかに低くなるのが国内外から報告されています。一方2回の接種を受けても完全に発病を防げるわけではなく、その場合には他の人に感染を広げることもあり、また中には中等症~重症になる場合もあるので、3回目の接種をできるだけ早く受けておくことをお勧めします。